

講義科目 : 刑事訴訟法 (70期生)	単位数 : 4
担当 : 加藤 拓也	学習形態 : 選択科目
	実務経験 : 有

講義の内容・方法および到達目標

・刑事手続きの概略や流れ、登場人物とそれぞれの立場、法的論点とその解釈論、実務上の運用状況と判例の動向等について、日頃刑事手続きに関与している弁護士が、具体的な事件に即して解説します。基本的には講義形式ですが、受講者の発言や意見を求めることもあります。

・具体的な事件について法律的な観点から問題点を発見し、考察できる力及び刑事手続きのあるべき姿を多角的な観点から検討できる力等を身につけることも目標とします。

授業計画

第1回	オリエンテーション (刑訴法の概要と授業計画)	第16回	刑事裁判の概略
第2回	刑事事件に関わる人とその役割	第17回	刑事裁判の基本原則
第3回	ビデオ視聴と解説1 (捜査)	第18回	刑事裁判の審判対象
第4回	ビデオ視聴と解説2 (被告人の立場)	第19回	証拠物・科学的証拠
第5回	ビデオ視聴と解説3 (公判)	第20回	自白の取り扱い
第6回	強制捜査と任意捜査	第21回	供述調書の取り扱い
第7回	捜査の始まり	第22回	違法に収集された証拠
第8回	証拠物を収集する捜査	第23回	適正な事実認定
第9回	新しい捜査方法	第24回	模擬裁判
第10回	被疑者の身体拘束	第25回	判決・上訴・再審
第11回	被疑者の取調べ	第26回	裁判員裁判
第12回	被疑者の防御権	第27回	少年法との違い
第13回	捜査の終結	第28回	犯罪被害者保護
第14回	捜査弁護の実務	第29回	有罪判決後の処遇と更生
第15回	前期のまとめ (前期試験の講評)	第30回	後期のまとめ (後期試験の講評)

教材・テキスト・参考文献等

授業ごとにレジュメを配布します。教科書は特に指定しませんが、「刑事訴訟法判例百選 (第10版)」(有斐閣)等の判例集を読むことをお勧めします。

また、授業には必ず六法を持参してください。

成績評価方法

出席点 (不定期に実施する小テストやレポート課題の結果を含む) 50%

定期試験 (年2回) 50%

毎回出欠をとり、10回を超える欠席があった場合には、成績評価は不可とします。また、質問は随時受け付けます (出席点で加味します。)

実務経験

講師は、三重弁護士会所属の弁護士です。刑事事件は、今までに120件以上担当し、裁判員裁判の経験もあります。その中で得られた実務経験等も踏まえながら、刑事手続きについて具体的かつ分かりやすくお話しします。

その他

新型コロナウイルス感染症対策に伴い遠隔授業となった場合には、上記授業計画及び定期試験の実施に変更が生じることがあります。その場合には適宜事前にお知らせします。